平成２４年度　発掘調査速報展

油伝（2）遺跡

所 在 地：蒔苗字油伝

時　　代：平安時代、戦国時代

調査期間：平成 24 年5月 28 日～10 月5日

調査面積：1,438 ㎡

調査原因：市道整備

油伝（2）遺跡は弘前市街地の北西部、後長根川左岸の微高地上に位置しています。市道蒔苗横町線整備にともない、平成 24 年度から4か年計画で発掘調査を実施する予定です。

今年度の調査の結果、平安時代の竪穴住居跡を30棟以上、戦国時代のものと考えられる堀跡を10本以上、井戸跡などの土坑50 基以上を検出しました。平安時代の竪穴住居跡は、多くが一辺5～6mほどの正方形をしており、東側の壁にカマドが取り付けられています。同一箇所で度重なる住居の建て替えが行われており、今後土を掘り進めていく過程で、さらに多くの住居跡が発見されるものと思われます。堀跡は、南北方向に伸びるものと東西方向に伸びるものの２種類があります。大きいもので幅5m、深さ 1.6～1.7mほどの規模です。堀跡によって時期差があり、古い堀を埋め戻しては新しい堀を造る作業が繰り返されていたようです。平安時代の住居跡を壊して堀が造られていることや、幅広で深さのある形状、周辺の出土遺物などから戦国時代に掘り込まれた堀跡であると推測されます。

史跡津軽氏城跡　堀越城跡

所 在 地：堀越字柏田ほか

時　　代：戦国時代～江戸時代初め

調査期間：平成 24 年5月 21 日～9月 28 日

調査面積：1,201 ㎡

調査原因：史跡公園整備

堀越城は、弘前市南部の平野部に位置し、津軽為信が大浦城から移転した文禄３年(1594)から、二代信枚が弘前城を築城した慶長16 年(1611)までの 17 年間、津軽氏の居城となりました。昭和 60 年には国指定史跡となっており、市では現在、市民の皆様への公開を目指し、本丸などで史跡公園整備工事を実施しています。

平成 24 年度は、本丸東側や二之丸西側で史跡整備に伴う発掘調査を実施しており、本丸では幅 32mを超える東門跡や本丸御殿の一部を確認しました。また、二之丸では外堀を渡る土橋の跡や、通路跡（犬走り）などが確認されています。

史跡津軽氏城跡　弘前城跡本丸石垣

所 在 地：下白銀町１

時　　代：江戸時代

調査期間：平成 24 年7月 20 日～10 月 31 日

調査面積：82 ㎡

調査原因：本丸石垣解体修理

弘前城は慶長 16 年（1611）にほぼ完成しますが、本丸東側中央の石垣は未完成のままでした。その後の元禄7年（1694）から石垣の積み足しが行われ、築城から 88 年後の元禄 12 年（1699）に石垣が完成しました。明治 29 年（1895）に天守台の石垣が崩れ、翌年にはさらに隣接する北側の石垣が崩れますが、大正５年（1916）にはその修理が終わりました。近年、天守台の石垣から北側にかけて崩壊の危険性が高くなったため、石垣を解体修理することになりました。今年度はこれに先だって、石垣の裏側及び内濠の試掘調査を行い、石垣の時期毎の裏込め（内部の排水機能）の構造の違いや２mを超える大型の根石（石垣の最下部の石）の安定した状態などが確認されました。また、内濠からは石工が使用した石材加工用のノミも発見されています。

松前藩13 代藩主　松前徳広墓所

所 在 地：西茂森１丁目

時　　代：明治元年

調査期間：平成 24 年5月1日～8月 29 日

調査面積：180 ㎡

調査原因：防災設備設置

長勝寺の防災設備設置工事に先立ち発掘調査した結果、明治元年（1868）に弘前で病死し、長勝寺に仮埋葬のうえ、２年後に松前へ改葬された松前藩 13 代藩主松前徳広の墓所が発見されました。

当時の埋葬に関する詳しい記録はないものの、発見された墓所の構造は、約 15～20ｃｍの角材を井桁状に組み約 2.1mの空間を設けて木室部を作り、その内側には木炭が充填され、その内部に幅７ｃｍの板材で木槨部を配置しています。さらにその中には改葬された遺骸を納めた木棺が置かれていたもので、三重構造であったことが分かります。木槨内には、葬送儀礼に使われたと考えられる剃刀やもとゆいなどの遺物が残され、大名墓の構造や葬送儀礼はもとより、幕末の激動の歴史を物語る貴重な発見となりました。

＊＊＊

【展示に関する問い合せ先】弘前市教育委員会　文化財保護課埋蔵文化財係（岩木庁舎３階）

〒036－1393 弘前市大字賀田一丁目１－１　　℡ 0172‐82‐1642（直通）　　内線　768・381